

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	家庭生ごみ分別収集推進事業	会計	一般会計	事業No.	343	施策順No.	56-008
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-2-1-10-5		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	56 廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	14	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・旧市内JR飯田線東側区域の一般市民 具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	対象区域内の世帯数	3346	3329	3339	3298	3100		
	意図	・区域内家庭からの生ごみを堆肥化することにより、再利用する。 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
	対象をどう変えるか	年間の家庭生ごみ分別収集量(t) 参加町内の世帯数	167 2931	182 2947	177 2960	180 2960	169 2926		180 2960
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	年間の分別収集量の減少の要因としては、収集地区内の人口減少と高齢化の進行により、食品品の消費量が減少していることが考えられる。参加町内の世帯数の減少は、対象区域内の世帯数の減少による。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> ・旧市内JR飯田線東側地域内の、家庭より排出される生ごみを分別収集する事業。 ・収集された生ごみは、下久堅の「飯田市堆肥センター」に搬入し、畜ふん等と混ぜ有機堆肥として再利用される。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 家庭生ごみの分別収集運搬委託	1 家庭生ごみ分別収集量	1 169t
23年度実施計画	1 家庭生ごみの分別収集運搬委託 2 分別収集の徹底を図るため、「飯田市堆肥センター」の見学会を実施	1 家庭生ごみ分別収集量 2 見学会回数	1 180t 2 2回

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	(そ)ごみ処理手数料13,155千円	
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他	10,490	13,155	10,490	
一般財源		2,673		2,671	
	計(A)	13,163	13,155	13,161	
	正規職員所要時間		520		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		1,860		
	トータルコスト A+B		15,015		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを集積所まで持って行くのは大変だが、「燃やすごみ」として出す量が減った。また、生ごみが、質の良い有機肥料として再利用されるように分別に心がけているという声を聞く。 ・収集区域の拡大をしてほしいとの意見がある。 ・桐林クリーンセンターでの焼却コストを考慮した、ごみの適正処理を希望する声がある。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①ごみを少なくする ②適正に処理・リサイクルされる	施策の成果指標又はムツ指標	ごみの収集量
				再資源化率
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	○燃やすごみから生ごみを分別をすることによる燃やすごみの減量化。 ○生ごみが堆肥としてリサイクルされることにより、ごみの分別意識の高揚と、その堆肥を使用した緑化活動等への展開。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	○生ごみ分別の徹底を図るため、該当地区へのチラシ配布。 ○生ごみの分別の重要性と堆肥がどのように作られるかを理解していただくための堆肥センター視察。 ○生ごみから作られた堆肥を利用した地区まちづくり委員会の緑化活動等への事業補助。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	○ごみ処理は市が実施するものであるので市が関与するのは適切である。 ○リサイクルされるものは手数料は徴収しないという方向の中で、受益者負担無についても適切である。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①市民が生ごみの分別収集を行うことによる燃やすごみの減量化。 ②分別促進のためのチラシ配布、堆肥化の状況を理解していただくための施設見学、まちづくり委員会が行う生ごみ堆肥を利用する緑化事業等への補助を行った。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	○生ごみ堆肥を利用した緑化事業等への補助事業展開を行ったことにより、生ごみ堆肥を通して分別収集事業を理解する者が出てきている。 ○市廃棄物処理計画及び広域の廃棄物処理計画により、現在の事業展開が変更になる可能性がある。 ○ごみの減量化を進めていく中で、生ごみ収集量増が成果指標となるのは疑問がある。		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------